

---

外国スカウト受け入れ家庭のための

# ホームステイの手引き

---



平成27年5月発行 国際委員会



公益財団法人  
**ボーイスカウト日本連盟**

## 目 次

・ はじめに .....	1
1 ホームステイとは .....	2
2 ボーイスカウト運動のホームステイについて .....	2
3 受け入れの準備と心構え .....	3
4 家庭への受け入れ .....	5
5 スケジュール作り .....	7
6 病気やケガのときは .....	8
7 相手のことを知る .....	8
8 送り出し .....	9
9 困ったときには .....	9
資料 受け入れ家庭からの感想 .....	10
トイレ利用法 .....	11
浴室の利用法 .....	12
簡単な英会話の例 .....	13
主要連絡先一覧 .....	14

### 平成26年度・27年度 国際委員会

委員長	鈴木 令子	日本連盟理事
副委員長	近藤 明彦	神奈川連盟
委員	片寄 朗	千葉県連盟
委員	滝 克己	愛知連盟
委員	井手 直秀	福岡県連盟

### 平成22年度・23年度 国際委員会

委員長	鈴木 令子	日本連盟理事
副委員長	水田 慎也	千葉県連盟
委員	赤塚 広之	大阪連盟
委員	松田 美歌	京都連盟(イラスト協力)
委員	平塚 学	熊本県連盟

### 平成24年度・25年度 国際委員会

委員長	鈴木 令子	日本連盟理事
副委員長	近藤 明彦	神奈川連盟
委員	片寄 朗	千葉県連盟
委員	滝 克己	愛知連盟
委員	木村 孝博	福岡県連盟

## はじめに

現在多くの県連盟ではさまざまな国との派遣交流やイベントへの参加交流等が実施されており、同時に海外からもスカウトが来日し、日本のスカウトとの交流が進められています。そのなかでもホームステイは一番の人気プログラムです。「ホームステイ」の価値は十分に理解されているなかで、現実を受け入れる事になると多くの不安があり、担当するとなるとその準備に戸惑う家庭が多い事も事実です。

今年はいよいよ第23回世界ジャンボリーが開催され、総数3万人を超えるスカウト達が山口県きらら浜にやってきます。そして約8000名のスカウト達がホームステイに日本全国各地を訪れます。すべての県連をあげて海外のスカウト達に楽しんでもらえるようホームステイプログラムを準備しています。これは私たちが海外へ行くたびにお世話になった恩返しでもあります。日本のスカウトが他の世界を自分自身で感じ、なおかつ日本の事を再確認するチャンスでもあります。

「ホームステイ」とはお互いの国の風俗・習慣にふれ体験することで相互理解を深め、心のつながりが持てる最高の国際理解の場でもあるのです。スカウト運動の「すべての国の青少年との相互理解を図り、友情を育むため、国際活動に努める」という理念をまさに実行する場なのです。

21世紀を担う青少年に世界を開きましょう、世界を体験する機会を提供して行きましょう。

平成27年5月

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 国際委員会

\* この手引は必要最低限の内容に留めています。各県連盟、地区における様々な情報については所属する各県連盟および地区にお訊ねください。

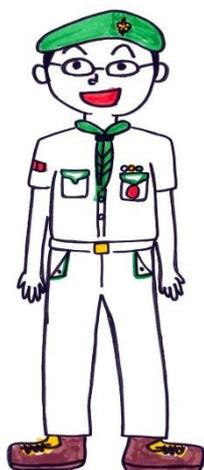
## 1. ホームステイとは

外国人を自分の家庭に招いて宿泊させ、生活体験をしてもらうことを“ホームステイ”と言います。ホームステイをする外国人を「ゲスト」と言い、「ゲスト」を受け入れる家庭を「ホストファミリー」と言います。

ゲスト（外国スカウト）を自宅に泊めておもてなしをする事は、ゲストに日本の普通の生活様式を体験してもらいながら日本の文化を理解する場を提供するという事を目的としています。ホストファミリーにとっては、ゲストへの生活体験提供を通じた国際交流と外国文化理解を行う良い機会となります。

「スカウト」としてお互い理解しあい、交流を深めること、外国スカウトと心のつながりをもつこと、これがホームステイの意義なのです。第21回世界スカウトジャンボリーが開催されたイギリス連盟ではホームステイのことを Home Hospitality（ホームホスピタリティ）、略して HoHo（ホーホー）と呼んでいます。HoHo（ホーホー）の意味は「家庭で歓迎します」ということです。

スカウト運動において各国を訪問した際にホームステイを行うことは異文化理解・相互理解を深めるために大変重要な機会であり、受け入れの準備等は大変かもしれませんが、それに勝る経験と喜びを得る機会と捉えられています。



## 2. ボーイスカウト運動のホームステイについて

ホームステイは学校が行うものや語学研修のために民間の業者が行うものまで様々な組織で行われています。一般的な意味は前記の“ホームステイとは”に書かれています。

しかし、ボーイスカウト運動が行うホームステイは、ボーイスカウトならではの特征があります。この特徴とはボーイスカウト運動が世界的な運動であり各国のスカウト連盟は、どの国においても共通の基準とポリシーに従って運営されているということです。ホームステイのプログラムも世界共通の基準をもとに提供されているのです。

この特徴により私たちは安心して海外から日本を訪れるスカウトを受入れ、また海外のスカウト関係者の家庭でホームステイをする事が出来る仕組みになっています。

### 全員が世界スカウト機構加盟員です

海外からやってくるスカウトも指導者も全員が世界スカウト機構の加盟員です。即ち、スカウトの「ちかい」を約束し日々実行をちかうという共通の基盤があります。その信頼関係の中でこの“ホームステイ”は成り立っています。

### 無償のボランティアで行われます

宿泊や食事が有償ではなく、無償で行われるのが慣習となっています。しかしこれは宿泊代、食事代を節約するために行われるのではなく、スカウト同士が相互に文化を理解し、スカウト精神を基に交流を図ろうとするものです。ホームステイが行なわれることそのものが「おきて」の実践そのものとなっています。

### 協力体制を得る事ができます

ホームステイを引き受けるご家庭に対しては、所属する団、地区、県連盟というサポート体制が背後にしっかりと整っています。

サポート体制には事前の情報提供、準備のための相談、期間中のさまざまなハプニングに対する相談、また事後の報告会やレポートなどによる体験談の提供などがあります。さ

らにホームステイ経験者がアドバイザー役として詳細な事柄についても気安く相談できる体制を整えています。このような経験を生かしたホームステイに対するより良い準備を団、地区、都道府県連盟で維持確保することによってサポート体制の強化をはかっています。

例えば、夜には他のスカウトがその家庭に集って大勢で遊ぶ時間を作ったり、団や地区で行事プログラム（クリスマス会、もちつき、花火大会、キャンプファイアなど）を提供することが可能です。このようにさまざまなアイデアでホストファミリーだけに負担がかからないよう、また海外のスカウトに日本の文化を多様に楽しんでもらう機会を増やすようなプログラム作りや緊急時に協力する体制が整っています。

### 安全管理が整っています

「スカウト運動」は青少年の健全な成長を目指す教育組織です。ここでは青少年の安全確保を最優先することが大切だとされています。これらの理由によりホームステイは基本的に男女別の二人一組のペアで受け入れをお願いします。これは海外からのスカウトに万が一何かがあった時もう一人のスカウトが対応し、コミュニケーションできるという理由があります。また常に指導者が連絡の取れる範囲で待機しており、緊急時には対応出来るようになっています。

海外からのスカウトが海外旅行保険に加入しているかどうかは国によってまちまちですので確認してください。

## 3. 受け入れの準備と心構え

受け入れ準備を進めるにあたり、団・地区・県連盟との打ち合わせを行います。

- (1) 外国スカウト隊が日本を訪問しホームステイを行う場合、外国スカウト隊を受け入れる母体となるのは日本連盟や県連盟、地区や団などです。いずれの場合も訪問を希望する国のスカウト連盟と日本連盟が交渉の窓口となります。

ホームステイを希望する場合、スカウトについての様々な情報は外国スカウト隊を受け入れる母体（日本連盟、県連盟、

地区、団）から得られます。

- (2) それぞれの受け入れ母体には必ずホームステイを円滑に進めるための担当者がいます。そして何か疑問な点がある場合は、まずは一番身近な各団の団委員長に聞いてください。そして地区や県連盟とのコミュニケーションは団委員長を通してするのか、直接するのか確認しておきましょう。海外のスカウトが体調不良になったり、沈んだ様子が見えたり、あるいは何かを知らせようとしているがコミュニケーションがうまく取れない、海外のスカウトが自隊と連絡を取りたがっているなどのハプニングがあるかもしれません。文化習慣の異なるスカウトがやってくるのです、ハプニングは必ず起きると思っていた方が当然であると思います。

- (3) ホームステイの経験者を紹介してもらうことも非常に大切です。経験談やアドバイスも聞けるでしょう。小さなことでもしっかり相談にのってくれるはずですし、思わぬ事に気づかせてくれて、あとから“こうやっておけばよかった”という事をひとつでも減らせることでしょう。準備期間中から受け入れの最中も心強い相談相手になってくれると思います。

- (4) 様々なハプニングに適切に対応するためには、各担当者との綿密な連絡が欠かせません。この冊子の巻末にホームステイ受け入れに際して協力し合う関係者の連絡先記入欄がありますので、ホームステイ受け入れの際には関係各者の連絡先を必ず記入しましょう。

受け入れる事を決めたなら、心の準備と受け入れ準備を開始することになります。これもボーイスカウト運動ならではの準備と言えるでしょう。

### スカウトが主体となって準備しましょう

とかく家族、特に母親がすべての準備に奔走しがちですが、大事なのはスカウト自身を巻き込み、その準備に積極的に関わらせる事です。保護者がやってしまうほうが簡単、時間短縮になるかもしれませんが、スカウトが

自分で準備に関わる事で心の準備も次第に整ってくるでしょう。これは受け入れるスカウトに限りません。海外からのスカウトにも自宅での手伝いをしてもらう事により一体感を感じてもらえるでしょう。つまり準備はすべて海外のスカウトが来る前に済ませず、一緒に仕事をする事も「よい経験」となることを知っておきましょう。「おもてなし」とは「上げ膳、据え膳」ではなく、普段の生活そのものを体験してもらうことなのです。

## 家族全員で準備しましょう

これは“スカウトが主体となって準備すること”とは裏腹のようですが、家族の一部だけが準備に関わるのではなく、全員でかかわる事が大切です。準備する楽しさは迎え入れる期待感をより高め、海外のスカウトとともに楽しくすごそう、という気持ちで家族がひとつになって行きます。

また、お子さんがすでにスカウトを卒業したご家庭でもホストファミリーを引き受けることは可能です。さらに、すべての期間面倒を見ることができないご家庭でも、昼の間一緒に行動したり、夕食に招いたり、宿泊を引き受けたりという部分的な引受も可能です。

## ゲストを迎える心構えについて

ホームステイは、日本人の普段の生活を外国人に知ってもらおうとするものですから、特別な扱いをする必要はありません。あまり意気込まずに、各家庭のありのままの姿で受け入れてください。

また、ホストファミリー全員が、ゲストを“心から受入れる”ことが大切です。もし、家族の一人でも受け入れに反対していると、その雰囲気は自然に伝わり、ゲストに不安や緊張を与えることになるでしょう。ゲストにできる限りリラックスして滞在してもらうためにも、家族全員がゲストを歓迎する気持ちを持っていただくことが大切です。

ホームステイを受け入れる側と送り出す側の気持ちは鏡の両面とってください。受け入れる側はどんなスカウトなのかかわからないと不安ですが、送り出す側もどんな家庭かわからないと不安です。

受入側と送り出す側、お互い知りたい気持ちは同じです。受け入れる側では、スカウトの性別・年齢・学年・宗教・アレルギーや食

事制限の有無・趣味等を知りたいでしょうし、送り出す側としては、ホストの職業・家族構成・ペットの有無等が気になります。滞在家庭の決定は通常受入側主導で行われます。受入家庭の決定が遅れたりしますと送り出す側は「何が原因だろう。嫌われているのだろうか。」と不安になります。



## ゲストとの事前コンタクト

派遣には様々な形があり一概に言うことは難しいのですが、受け入れるスカウトの連絡先が分かったならば、事前コンタクトにより意思の疎通を図ることはスムーズなホームステイを進めるための準備を容易にします。ただし、相手の情報が間際にならないと分からない場合も多々あります。もし連絡先が分かったならば次のような事に気をつけてコミュニケーションをとりましょう。

外国スカウトとのコミュニケーションには基本的に英語が使われます。単語があっていれば、少々文法が違っていても通じます。一文字違えると意味が全く違う場合がありますのでスペルにはご注意ください。またメールアドレスは、半角で間違えないように打ち込みましょう。1文字でも間違えると届きません。

聞きたい内容は送り出し・受入双方ともほぼ同じです。知りたい事について、まず皆様ご自身のことを紹介してください。相手も同様な内容の返事をしてきます。

家庭などの紹介例：

- ・自分のこと（名前、ニックネーム、年齢、職業、スカウト歴、現在のスカウトにおける役務、趣味、)
- ・家族構成（名前、年齢、職業、趣味、ペットなど）

- ・ 受入期間中の地区、自団、自隊等での交流計画（計画がある場合には、歌やゲームなど特にお願したいことを連絡してください。）
- ・ 現在の天気・気温

## 言葉と語学力

ゲストを受入れる際、一番不安なのは、「言葉」の問題のようです。

英語（外国語）が話せないという理由で、ホームステイを引き受けられないと考える家庭も多いようです。言葉が通じれば、お互いによく意思が通じ合い交流が深まるかもしれませんが、言葉がすべてではありません。

語学力に自信がなくても、身振り手振りや、絵を描きながらの筆談でも、心が通じ合い、交流を楽しむことはできます。

ゲストに自分の気持ちを伝えよう、ゲストの言っていることを理解しよう、という気持ちが一番大切なのではないでしょうか。

## 費用の負担

ホームステイの受け入れに伴う費用の負担について、不安を感じるホストファミリーも多いようです。

基本的には食事と宿泊の提供はしますが、ゲストの滞在期間におけるすべての費用をホストファミリーが負担する必要はありません。

ゲストの個人的な支出、例えば、外出時の交通費、個人的な買い物、医療費等の費用はゲストの個人負担として問題ありません。

金銭のことは曖昧になりがちですので、最初に具体的に話し合うとともに、外出を計画する場合はどのくらい必要か事前に説明するなどして、ゲストが負担すべき費用についてルールを決めておくことが大切です。そうすれば、お互いに気まずい思いをしなくても済みます。

## 意思表示

日本人はよく曖昧な表現しかできない、といわれますが、世界中にはいろいろな人々が、それぞれの習慣で暮らしています。ゲストでもはっきり自分の意見を言わない人もいますし、その反対に率直に言う人もいます。

ホームステイでは、違う生活習慣を持った人同士と一緒に生活するわけですから、不

議に思うことや理解できないことが出てくるかもしれませんが、その疑問をそのままにせず、何でも気さくに話し合うという姿勢が大切です。

## 4. 家庭への受け入れ

### ゲストとの出会い

初めてゲストと対面する時は、だれでも緊張するものですが、それは相手も同じです。恥ずかしがらず、笑顔で明るくゲストを迎えましょう。

言葉は通じなくても、歓待の気持ちは伝わるはずですが、あいさつをする時は、無理に慣れない外国式のあいさつをしなくても、握手やお辞儀で十分です。外国人にとっては、日本式のあいさつに興味を抱く人も少なくありません。

また片言でも相手の国の簡単なあいさつができると、相手にも喜ばれ、最初の緊張が少しほぐれるでしょう。

### 家族の紹介のしかた

外国人にとって日本人の名前は、一度聞いただけではなかなか覚えられません。自己紹介のときに紙に書いて渡してあげるとよいでしょう。また、家族の中での呼び名も教えてあげると、家族の一員になったような気持ちになり、お互いに親しみが増すでしょう。

自己紹介の時には、ひとりひとり自己紹介をしましょう。短い期間でも家族の一員として一緒に暮らすわけですから、お互いに知っておきたいこと、知ってほしいことをはっきり伝えましょう。

趣味などの話をしたり、いろいろな質問をする中で、会話の糸口が見つかるかもしれません。

### 家族の習慣・ルールの説明

滞在中、お互いに気持ちよく過ごすため、家族の一員として生活を共にする上で、スカウトに知っておいてほしい習慣やルールなどがあれば、きちんと説明しましょう。下足で家に入らないことはもちろん、ゴミの分別や帰宅時間などを決めることも大切なことです。滞

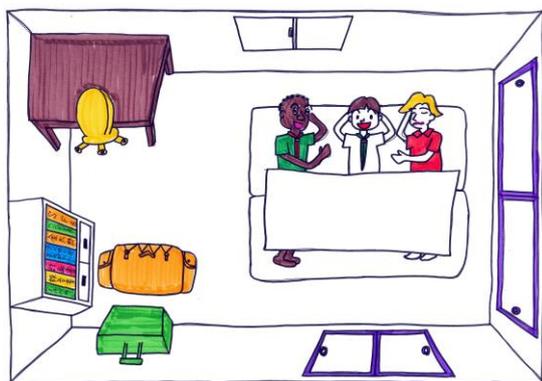
在中の交通費・スナック類などの嗜好品や出先の入場料などの支払いは基本的に本人持ちであることなど、ホームステイの最初にしっかりと話しておきましょう。

ただ、あまり詳細な説明をすると、相手が負担に感じる場合もあります。特に短いステイの場合は、これだけは守ってほしいという最低限のルールを説明すると同時に、決めごとを紙に書いて見えるところに貼ることもお互いの理解のために有効です。

それぞれの異なる生活環境で暮らしてきた者同士と一緒に生活するので、強制するのではなくスカウトの生活習慣も聞いたうえで、無理のない程度に協力をお願いするという姿勢が大切です。

## 提供する部屋について

部屋は、洋風、和風どちらでもかまいませんが、しいていえば和風がお勧めです。しかし、現在の日本家庭は和洋折衷ですので、様式にこだわらずに部屋を提供してください。場合によっては自宅のスカウトと一緒に部屋で過ごすケースも良いと思います。過去の例ですが、一部屋で外国スカウトと家族と一緒に過ごしたり、寝袋でソファを利用して寝てもらったケースもあります。また気をつけていただきたいのですが、提供する部屋及び共用部に置いてある小物で、なくなると困るものは片付けるようにしてください。ホームステイ期間中に物がなくなりお互いにいやな思い出にならないようにしたいものです。



## コンピューターの利用について

近年、世界のスカウトたちもスマートフォンやパソコンを使いこなし、それらが生活の

一部となっています。スカウトにご家庭のコンピューターを利用させる際に起こりがちなのが、スカウトがコンピューターに夢中になり長時間利用することなどから、ホストファミリーとの会話が少なくなるといった傾向が見受けられることです。これではホームステイを引き受けて海外のスカウトとの交流を図るという目的が達成できません。このことに対応するためには、ホームステイの最初にルールをしっかりと決めておくことが大切です。

これまでに有った事例として、

- ① ホストファミリーのパソコンを長時間利用し続け迷惑をかけた事例
- ② ホストファミリーとのコミュニケーションを疎かにして、自国の家族や友だちと長時間に渡りパソコンを利用してコミュニケーションする事例
- ③ 日本にいる自国の友人とホストファミリーの知らない間に約束し、外出・旅行をするなどの事例

海外から来たスカウトにご家庭のコンピューターなどの利用を許可する場合は、利用可能な時間等をあらかじめ決める事が大切です。生活時間のルールに書き込むと良いでしょう。

## トイレの使用方法について

水洗トイレの使用方法については良く説明してあげてください。ウォシュレットなどは外国の方には馴染みのないものですから、ボタンの操作など忘れずに説明してあげましょう。

和式のトイレでも使い方をきちんと説明すれば、まったく問題はありません。（巻末資料参照）

## 入浴について

日本式のお風呂の入り方を教えてあげてください。各家庭で入浴設備の使用方法が違いますので、特にシャワーの使い方、温度設定の変更方法などやけどをしないようにはっきりと説明してください。

浴槽のお湯は家族全員が体を温め、リラックスするためのもので、湯から上がる時に栓を抜く必要がないこと、また体は浴槽の外で洗うことなど日本人にとっては当たり前でも、外国人には馴染みのないことがたくさんあります。言葉で伝えるのが難しい場合は、使い方を身振り手振りで見せるのもよいでしょう。

ゲストの中には、朝入浴するのを習慣にしている人もいます。だからといって無理にゲストに合わせる必要はありません。

我が家での入浴の習慣を説明し、協力してもらいましょう。(巻末資料参照)

## 食事について

食事はホームステイの大きな楽しみの一つでもあります。と言っても、特別な料理を用意する必要はありません。普段の食事で十分です。家族全員で楽しく食事をするのが最大のおもてなしになります。

国の習慣や宗教、個人の体質や嗜好により食べないもの、食べられないもの(アレルギーなど)があります。この場合は、十分に注意して下さい。日本の味にどうしても慣れない人もいますので無理強いしないでください。

食べたいものを食べたい分だけ大皿から取ってもらうのもよいでしょう。お好み焼きや鍋物、鉄板焼きなど、みんなで作りながら食べられる料理も楽しい団欒のひとつになります。

ゲストにお国の料理を作ってもらうのもよいでしょう。料理だけでなく、その食べ方を教えてもらうなど、言葉は通じなくても食を通じて気軽に異文化交流できるよい機会になります。準備、後片付けなどでお客様扱いはありません。本人が手伝うといえ、気軽に手伝っていただきましょう。成人でも男性の方でも気にすることはありません。

例えば、食器を並べるのは子供の役目という家庭のルールがあれば、一緒に手伝ってもらうのも良いし、料理の作り方を説明しながら一緒に作るのもいいでしょう。ちゃんと説明して何かを頼めば、失礼になりません。

参加させてもらうことで、家族の一員として認められているように感じ、喜ばれることもあります。(巻末の会話例参照)

## 電話の利用について

結構トラブルのもとになりやすいのが、電話です。電話料金は後から請求がきますので、ゲストの方が帰られてから請求書を見てびっくりということもあるようです。

特に国際電話、長距離電話は、できるだけ、コレクトコール(料金着信者払い)にかけて頂く等、料金の支払い方は明確にしておきましょう。

スカウトが、海外(日本)でも使える携帯

電話を持っている場合は、その携帯電話を使用すれば、電話代のトラブルの心配はありません。

## 5. スケジュール作り

ゲストを受入れる際に、多くのホストファミリーは「滞在中はどのように過ごしたらよいか」、「どこかへ連れて行ってあげないといけないのか」等、不安を抱くこともあるでしょう。限られた時間内に、いろいろな経験をさせてあげたいと計画を練る前に、いくつか注意しておきたいことがあります。基本的には、ゲストの立場に立ったスケジュール調整をすることが大切です。

「あれもしてあげたい」、「これもしてあげたい」、「あそこへ連れて行ってあげよう」と一方的にスケジュールを詰め込もうとするのは考えものです。

ゲストの予定や意向を聞きながら一緒にプランを立てると、会話ははずみ、楽しいスケジュールが作れるでしょう。

また、他のホームステイ家庭との連携、隊、団との連携したスケジュール作りをし、決して一家庭だけで背負ってしまって、負担とならないようにしたいものです。たとえば、隊や団の通常のプログラムが行われているならば、そのプログラムに参加することは大変良いおもてなしになるはずです。季節によっては餅つきや凧揚げなどの日本伝統の文化を体験できますし、スカウトのセレモニー(上進式、ちかいの式など)を体験してもらうことはスカウトには興味深いものとして受け取ってもらえます。

スケジュール作りにおいては、次の点にも留意しましょう。

安全・ゆとりある時間配分・教育的意義・決して無理をしないプラン(お金をかけないでもできるもの)・出かけるだけでなく、家庭内でできるもの・出かけるときの、はぐれた際の対策(緊急連絡先等)



## 6. 病気やケガのときは

### (1) 体調を崩したら

不安を解消する事が先が必要です。地区・県連盟国際委員もしくは県連盟事務局にご連絡をお願いします。同時にスカウトの指導者滞在先に連絡を取り、スカウトと指導者が直接話をすることが大事です。

その後の行程をどうするかは、いかなるケースでも指導者がスカウトと話し判断します。予定通りの行動ができないと判断された場合は、指導者が県連盟・日本連盟と相談し対応を決定します。

### (2) 病気やケガ

滞在期間中に、スカウトが病気になったり、ケガをした場合は、地区・県連盟国際委員もしくは県連盟事務局に連絡をお願いします。同時に指導者滞在先に連絡を取り、スカウトと指導者が直接話をすることが大事です。

投薬などはアレルギー等体質に合わない場合大変なこととなりますので軽度（頭痛、風邪、咳など）であっても自分の判断では行わず、医師の指示に従ってください。

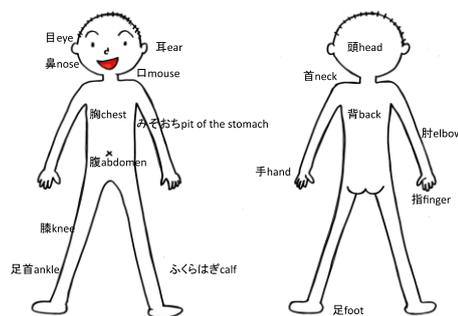


### (3) 医療費の支払い

万一、病院で治療を受ける場合、治療費の支払いは本人か外国人引率指導者が全額実費で支払うこととなります。海外旅行傷害保険に加入しているスカウトもいると思いますが、日本の医療機関で海外の保険を適用する事はほとんどできません。医療機関から英文で書かれた領収書を忘れずにもらって 保管しておくように、スカウトに伝えてください。

もし、立て替える必要が生じた場合は、地区・県連盟国際委員もしくは県連盟担当者（事

務局）にご連絡お願い致します。外国人指導者がいる場合には、事前にその指導者とも必ず相談してください。



### 不慮のケース

不慮のケース（たとえば物損等）が発生した場合は、大至急、地区・県連盟国際委員もしくは県連盟担当者へ連絡して対処するようにお願いします。

## 7. 相手のことを知る

### (1) 宗教

ゲストは、それぞれ固有の文化・習慣を持っています。特に「宗教」は生活の礎となっており、戒律に従って暮らしているゲストも多いようです。

大切なことは、さまざまな国のゲストとの出会いを通して、お互いの文化や生活様式の「違い」を尊重し、世界の多様性を知ることでしょう。

様々な宗教観に基づく食習慣の違いがありますので、覚えておくとうい事項をいくつか紹介します。これが全てではありませんのでゲストの信仰に関する情報や、食文化に関する嗜好を調べて下さい。

#### ① イスラム教

豚肉、ラード、その加工品であるハム、ソーセージなどは食べません。お酒も飲みません。左手は不浄の手とされています。犬は不浄の動物として触れません。一日に3回から5回、メッカのある西に向き、お祈りをします。またラマダンと言って日の

出から日の入りまでは食事を取らない「断食」の時期があります。

## ② ヒンズー教

牛肉を食べません。菜食主義者（ベジタリアン）もいます。左手は不浄のものとされています。

## ③ ユダヤ教

豚肉を食べません。また、牛肉と乳製品を同時に食べません。タコ、エビ、カニ、貝類など、ウロコやひれまたは骨がないものは食べません。

## (2) 食に関する嗜好

肉類をはじめ、卵やチーズなど動物性タンパク質を口にしない菜食主義者（ベジタリアン）やカフェインを含む刺激物、例えばコーヒー、お茶なども食さない方も多くいますが、個人差がありますので、食事について嗜好の確認をとるようにしましょう。



## 8. 送り出し

最終日の部屋の片づけは、外国スカウトに忘れ物の確認もあるので、やらせるように指導しましょう。最後まで家族の一員として扱きましょう。

ホストファミリー側でも出発時には忘れ物がないか、よく確認してください。特にパスポートは必ず確認してください。

また、たとえ小さな物でも忘れ物があると、どう処理したら良いか困ったりするものです。

家を出る前にホストファミリーの方でも気をつけてあげることが大切です。

出発の当日は、早めに準備にかかり、集合場所へは時間の余裕を十分にみて到着するよう心がけてください。

## おみやげ

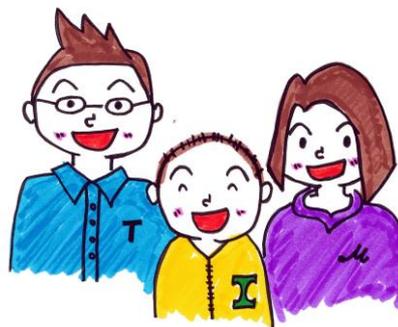
日本ではお別れにおみやげを渡す習慣がありますが、外国の場合は国や個人によってさまざまです。

「原則的にはおみやげは必要ない」と考えてください。家に招待し、一緒におしゃべりしただけで十分もてなしたことになるのです。ホストファミリーとの楽しい思い出がゲストにとって一番のおみやげになります。

どうしてもプレゼントをしたい場合は、安価で、かさばらず、持ち運びが便利で、壊れにくい物が良いでしょう。皆で撮影した写真やゲストが滞在中に使用していた日用品、手作りの品などは、より心がこもった記念品となり喜ばれるでしょう。

## 9. 困ったときには

外国スカウト受入の場合は地区・県連国際委員会が窓口となります。（国際委員会がない場合は、県連盟事務局または当該の委員会が窓口です。）文化・習慣の違い、スカウトの体調などで「想定外」の事態も有り得ますので、緊急連絡手段（携帯・メール等）をご確認ください。



## 【 資 料 】

### —受け入れ家庭からの感想—

○ 今回の受け入れで感心するのは4年生の息子です。いつも外国スカウトに遠慮なく完璧な日本語で、ゲーム等します。特に説明の必要な(私にとっては)操作も当然の日本語。スカウト達はすぐにゲームセットすべて息子の勝利。でも我が家に到着して10分後には笑いの連続でした。(名前も紹介していないのに)この様子を見ると、“もてなさなくちゃ”と思っていた私の気持ちは変わり、自分が、自分も楽しまないと、もてなしたい気持ちも続かないよな... と考えるのです。初日に名前入りの家族の写真を渡したことは良かったです。名前が覚えづらい様で、それを見ながら呼び掛けてくれました。

○ 初めてホームステイの受け入れを体験しました。とても良い思い出を家族皆で作ることができ、このような経験をさせていただいたことを感謝いたします。受け入れ前は、何を用意したらよいかわからず、又、どこに連れて行ってあげようかと悩み、不安もありました。私は家に初めて招き入れた時、部屋の使い方やお風呂の使い方の説明をして、食事の時、彼らに箸を一膳ずつプレゼントして、滞在中使い、帰りには持って帰ってもらいました。家の中では食事の配膳や片づけ、食器洗いを一緒にしました。2泊という短い期間ということもあり、どうしても“おもてなし”と考えがちですが、家事等少しでも家族として何か手伝ってもらうことで、外国スカウトも少々気持ちがほぐれたのではないかと思います。

○ 何よりも今回私は、言葉が通じない人たちと、こんなにも仲良くなれて、分かり合えたことがとてもうれしかったです。外国スカウトは全く日本語を話すことが出来ないし、私も全く彼女たちの言葉を読むことができません。英語もそんなに話せるわけでもありませんでした。でも英単語を並べジェスチャーをしながらお互い一生懸命伝えたいことを伝え、理解しようと努力することで、ここまで会話ができることにとっても驚きを感じました。

○ 普通の日本の家庭を知ってもらいたいと思っていましたので、特別な豪華な食事は用意しませんでした。私は仕事をしていて時間的な制約がありますので、昼は他の家族に対応して頂き、夕食から朝食まで我が家で引き受けました。友人の家族の理解と協力のもとにホームステイを引き受けたことで、外国ス

カウトとの生活は忘れられない体験になりました。

○ 我が家にとって初めての外国スカウトの受け入れで不安もありました。相手はスカウト、日本の普通の家庭の姿を見て(体験)すればよいのだと思い、いつもの我が家を楽しんでもらいました。

○ 一番の成果は末っ子の三男がまた、受け入れをして他の国の人達と交流がしたいとの感想が聞けたことです。最近では情報機器の発達もあり、受け入れた高校生が持ってきたスマホの翻訳機と片言の英語を使って、十分に意思の伝達が出来ました。また、2人を泊めるには我が家の部屋は狭く申し訳なかったですが、結果的に言葉が通じないことでのホームシックも起きずよかったです。

○ 特にうれしかったことは、トランプをして盛り上がった事です。皆、罰ゲームで歌やダンスを披露するのを避けるために、それはそれは必至でババ抜きを楽しみました。トランプをした後、急激に親しくなれた気がするので、絶対にお勧めします。

○ 一生懸命に折り紙をしたり、押し絵を作ったりして楽しかったです。言葉はあまり通じなかったけれど、知っている単語を並べたり、身振りなどで伝えたい内容が伝わった時にはうれしかったです。

○ 今回初めてホストファミリーになりました。会話集などを用意しましたが、会話は主に英語でした。インターネットの韓国語翻訳サイトで日本語を韓国語に変換しプリントアウトした紙を用い行動予定などを決めました。時間などきちんと守ってほしい事は文面にしてお互いに行き違いが無いようにすると便利です。

○ 夫が協力的で大変助かりました。やはり家庭の協力は不可欠です。ホームステイを通じて、家族みな沢山のことを学ばせて頂きました。

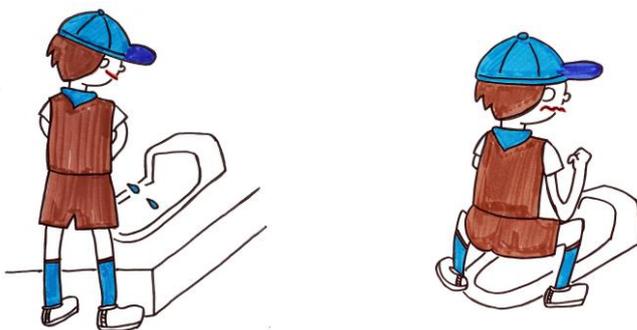
○ 私の娘が「お母さん、私、世界スカウトジャンボリーに行ってみたい。」とゲストを送り出した帰り道に言いました。おとなしい娘なのでビックリ。1人でも参加したいと・・・何かつかんだのですね。こんなすばらしい経験はないです。ぜひまた、参加させていただきたいです。

## － トイレの使用法 －

トイレットペーパーは便器に捨ててください。

[Please throw away used toilet paper into toilet bowl.]

### 日本式 Japanese style



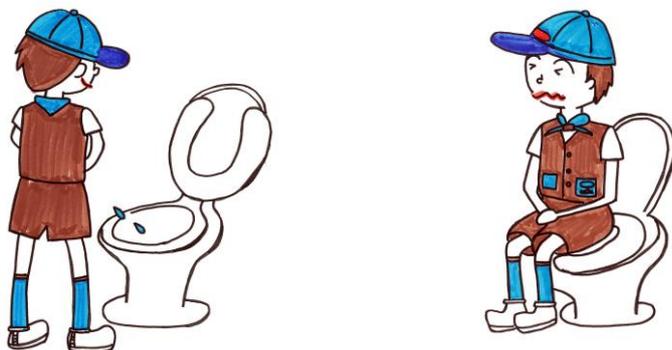
### 洋式 Western style

日本のトイレには“ウォシュレット”がついています。

[Some western style toilets are high-tech toilets.]

使い方はホストファミリーに聞いて下さい。

[Please learn how to use "buttons" before you try.]



## — 入浴の方法 —

- (1) まず、洗い場にてお風呂のお湯を使って体を清潔にします。  
[ Rinse your body with bath water outside the tub. ]
- (2) 次に洗い場にて体を石鹸にて洗います。  
[ Wash your body outside the tub and rinse thoroughly. ]
- (3) 浴槽に入り体をあたためます。浴槽内で石鹸を使ってはいけません。  
[ Warm up yourself in the tub, but do not use soap in the bath tub. ]
- (4) 浴後は、後から入る人のために浴槽の栓を抜いてはいけません。  
[ Do not pull the plug because others will use same water in the tub. ]



— 簡単な英会話の例（夕食での会話） —

H: Host family

S: 外国スカウト

H: Dinner is ready!  
[ごはんですよ!]

H: Please have a seat.  
[どうぞ、座ってください。]

S: Thank you.  
[有難うございます。]

H: Today we're having "Teppan-Yaki".  
[今日は“鉄板焼き”にします]

H: We have Beef, Chicken, Fish and Vegetables.  
[牛肉、鶏肉、魚と野菜を用意してあります]

H: Is there any foods you don't eat?  
[食べられないものはありますか?]

S: Well, I have never eaten fish before.  
[いままで、魚を食べたことが有りません]

S: But, I would like to try to eat it today.  
[でも、今日はじめて食べてみようと思います]

H: Okay! Let's try. I hope you like it.  
[そうですね。食べてみてください。お口に召しますよ]

.....



S: What do you call this in Japanese?  
[これは日本語でなんといいますか?]

H: We call it "O-Hashi"  
[お箸と言います]

H: What are the typical country foods?  
[あなたのお国にはどのような料理がありますか?]

S: We have "sauerkraut" and "sausage"  
[酢漬けキャベツとソーセージです]

H: Well, help yourself to anything.  
[ご遠慮なくお召し上がり下さい]

S: Thank you very much.  
[有難うございます]

食事時の単語集

日本語 (Japanese)	英語 (English)
箸 (Hashi)	chopsticks
箸置き (hashioki)	chopstick rest
炊飯器 (suihanki)	rice cooker
小皿 (kozara)	small plate
鍋物 (nabemono)	hot pot
味噌汁 (misoshiru)	miso soup
醤油 (syoyu)	soy sauce
塩 (shio)	salt
胡椒 (kosho)	pepper

— 主要連絡先一覧 —

組織・機関名など	担当者氏名など	電話番号・E-Mail など
日本連盟		
所属県連盟		
所属地区		
所属団		
スカウトリーダー名：	ホームステイ先：	
スカウトリーダー名：	ホームステイ先：	
スカウト名：	ホームステイ先：	

## 16NJ、15NJ、14NJでの外国スカウトのホームステイ実績

### 第16回日本ジャンボリー（16NJ：平成25年7月～8月 41の国と地域621人）

- 〔アジア太平洋地域〕アフガニスタン（3人）、オーストラリア（42人）、バングラデシュ（33人）、カンボジア（3人）、台湾（59人）、フィジー（3人）、香港（96人）、インド（3人）、インドネシア（3人）、キリバス（3人）、マカオ（10人）、モルジブ（3人）、モンゴル（3人）、ミャンマー（3人）、ネパール（3人）、ニュージーランド（3人）、パキスタン（3人）、パプアニューギニア（3人）、スリランカ（3人）、タイ（161人）
- 〔アフリカ地域〕アンゴラ（3人）、ブルンジ（3人）、カメルーン（3人）、コンゴ民主共和国（3人）、ガンビア（3人）、マラウィ（3人）、セネガル（3人）、トーゴ（3人）
- 〔アラブ地域〕アルジェリア（3人）、スーダン（3人）
- 〔ヨーロッパ地域〕オーストリア（1人）、イタリア（7人）、ボスニア・ヘルツェゴビナ（3人）、イギリス（59人）
- 〔ユーラシア地域〕タジキスタン（3人）
- 〔インターアメリカ地域〕ボリビア（3人）、ブラジル（9人）、エクアドル（3人）、ニカラグア（3人）、パラグアイ（3人）、アメリカ（17人）

### 第15回日本ジャンボリー（15NJ：平成22年7月～8月 10の国と地域643人）

- 〔アジア太平洋地域〕オーストラリア（5人）、台湾（48人）、香港（96人）、インド（8人）、韓国（26人）、シンガポール（58人）、タイ（72人）
- 〔ヨーロッパ地域〕ベルギー（2人）、イギリス（163人）
- 〔インターアメリカ地域〕アメリカ（110人）

### 第14回日本ジャンボリー（14NJ：平成18年7月～8月 35の国と地域887人）

- 〔アジア太平洋地域〕オーストラリア（8人）、バングラデシュ（3人）、ブータン（3人）、台湾（50人）、フィジー（3人）、フレンチポリネシア（3人）、香港（102人）、インド（22人）、インドネシア（3人）、韓国（134人）、中国（マカオ）（3人）、マレーシア（3人）、モルジブ（3人）、モンゴル（3人）、ネパール（3人）、ニュージーランド（3人）、パキスタン（3人）、パプアニューギニア（3人）、フィリピン（3人）、シンガポール（3人）、スリランカ（3人）、タイ（3人）
- 〔アフリカ地域〕モーリシャス（3人）、ジンバブエ（3人）、タンザニア（8人）
- 〔アラブ地域〕アラブ首長国連邦（3人）
- 〔ヨーロッパ地域〕チェコ（6人）、フィンランド（3人）、イギリス（51人）
- 〔ユーラシア地域〕アルメニア（3人）、ロシア（150人）
- 〔インターアメリカ地域〕アルゼンチン（3人）、カナダ（14）、メキシコ（3人）、アメリカ（270人）





平成27年5月改訂版発行

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 国際委員会

東京都文京区本郷1-34-3

TEL 03-5805-2568 FAX 03-5805-2908

URL <http://www.scout.or.jp>